

福井県立大学からのお知らせ

令和8年7月15日

報道機関各位

問合せ先
生物資源学科 教授 塩野 克宏
電 話 0776-61-6000 (内線 3606)
E-mail shionok@fpu.ac.jp

田んぼから出る「見えないガス」を、その場で見える化 福井農林高校生が最新装置で学ぶ、福井の米づくりと気候変動対策

水田は、福井の米づくりを支える大切な農業基盤ですが、温室効果ガスの一つであるメタンの放出源にもなっています^(※)。福井県立大学生物資源学部では、農地(水田・畑)のカーボンニュートラル実現に向け、温室効果ガス放出量の実測と削減技術の評価に取り組んでいます。

※日本では、水田からのメタン排出が国内総メタン排出量の約4割を占めており、耕地面積の 91%を水田が占める福井県にとって、水田の機能を守りながら環境負荷を低減する技術開発は重要な地域課題です。

今回、福井県立福井農林高等学校の生徒・教員(約7名)と温室効果ガス削減対策を推進している福井県職員(1名)を福井県立大学永平寺キャンパスの実験水田に招き、北陸3県で初めて導入した温室効果ガス測定装置(LI-7810)を用いて、水田から放出されるメタンガスを、高校生と一緒にリアルタイムで実測します。水田に専用チャンバーを設置すると、制御PC画面上にメタン濃度の変化がグラフとして表示され、目で見て確認できます。目に見えないために実感しにくい温室効果ガスの放出を、数値とグラフで確認しながら体験的に学んでもらいます。

本学では、この測定技術を活用して、低メタン放出イネの開発、水管理・栽培技術の改善など、福井・北陸地域の持続可能な米づくりにつながる研究を進めています。本企画は、高校生が食料生産、気候変動対策、科学技術のつながりを学び、地域農業の未来を考える機会となります。報道機関の皆さまには、高校生が水田で最新の計測を体験し、福井の農業と気候変動対策について学ぶ様子を、ぜひ取材いただきたく存じます。県民の皆さまにとっても、持続可能な福井の農業を考えるきっかけになると期待しています。つきましては、当日の取材につきましてご配慮を賜りますようお願い申し上げます。

内容: 水田から発生するメタンと気候変動の関係について説明するとともに水田から発生するメタンを実測
取材いただける主な場面

- ・高校生と水田に専用チャンバーを設置してメタンをリアルタイム計測する場面(品種や栽培条件による違いも紹介予定)
- ・制御PC画面上でメタン濃度の変化がグラフとして「目で見える」場面
- ・高校生が福井県職員と大学生・大学教員からの説明を受け、福井の米づくりと気候変動対策のつながりを学ぶ場面 など



福井県立大学
Fukui Prefectural University

FPU Press Release

福井県立大学からのお知らせ

記

1. 日 時(雨天決行。荒天時は内容を一部変更する場合があります)
令和8年7月22日(水)15:30～17:30



2. 場 所

福井県立大学 永平寺キャンパス 実験研究圃場の水田
(永平寺町松岡兼定島 4-1-1)

キャンパスマップ

※県大実験研究圃場(第3駐車場近くの実験農場)の詳しい位置はキャンパスマップをご参照ください。



福井県立大学
Fukui Prefectural University